

な気候に恵まれ、積雪量も少ないところから、人口の流入は近來かなり激しくなっている。若者の数も増え、ギヤスタウン（商店街）をはじめ、街中のいたるところにモダンなショッピング・センターが出現し、買物を楽しむにも魅力的な街となっている。

カルガリー

ロッキー山脈を望見する石油の町

アルバータ州第二の都市。ボー川とエルボー川の合流する広大な農耕地がカナディアン・ロッキーへと続く山麓地帯にある。自作農地提供が世界からの移住者をさそい、カナダ有数の酪農地帯として知られるようになった。

また、一九四一年、市の南部に石油が発見されたことから、カナダにおける石油の最大生産地として繁栄。今日、高層ビルが市のいたるところにみられるのもこの町の特徴。しかしながら、人々の親しみやすさと純朴さは相変わらず残っている。

カナダ旅行のハイライトといわれる、カナディアン・ロッキー山中、バンフ、ジャスパー両国立公園への入口でもある。

ウイニペグ

コスモポリタン気風あふれる
西部への入口

マニトバ州ウイニペグはカナダ第四の都市であり、中部カナダ最大の人口を誇る。アッシンボイン川とレッドリバーの合流地点に位置し、太平洋、大西洋からほぼ等距離にあるため、長い間「西部への入口」として知られてきた。

十九世紀中頃から商業の中心地として繁栄してきたが、現在では、世界有数の穀物市場に発展。移住による人種の混合は、同市北部の特徴である。多民族的文化をつくりあげ、すぐれたコスモポリタン気風をもたらししている。

またこの都市は、芸術活動の盛んな文化都市としても知られており、ロイヤル・ウイニペグ・バレエ団や、ウイニペグ交響楽団が年中公演している。

オタワ

新旧の調和のとれた美しい首都

オンタリオ州とケベック州の境界をな

すオタワ川の南岸に位置するカナダの首都。一八五七年、ビクトリア女王により中央政府所在地として定められて以来、カナダの政治の中心地として発展してきた。

世界でも有数の美しい首都であり、その美しさが、オタワを特徴づけている。街の中心を運河がゆるやかに流れ、通りには街路樹が緑の蔭を落とす。そして公園には花々。とくに「チューリップ・フェスティバル」が開かれる五月頃は、その美しさの絶頂だ。

また、オタワは古いものと新しいものがユニークに調和している都市でもあり、歴史的建造物と近代的高層建築、レクリエーション施設などが、見事な調和をみせている。これは連邦政府の首都公団が、他の州政府とも協力して地域開発の責任をもち、史的な建築物を保護しているためで、その努力は見事に実をむすんでいる。

カナダへの入国

カナダは査証（ビザ）なしで入国できる。ただし、旅券（パスポート）、往復の切符、カナダ滞在中の費用を用意する必要がある。また3か月以上滞在する場合は、入国管理事務所で登録すること。

米国を旅行中にカナダへ観光で入国する場合、査証は必要ないが、カナダ旅行の後再び米国へ戻る場合は、事前に米国移民局で米国への再入国にどのような書類が必要か、確かめておくこと。18才未満の未成年者が成人と同行せずカナダへ入国する場合、両親もしくは保護者からの旅行許可書を必要とする。

なお、釣り道具、キャンプ用品、ゴルフ、テニスなどのスポーツ用具、ラジオ、テレビ（ポータブル）、楽器、タイプライター、カメラなど、旅行者が自分で使うスポーツ用品や趣味用品は、申告して持込むことができる。通関を容易にするために、できれば、これらの物品のリスト2通を用意している方がよい。

その他、カナダ旅行の詳細については、カナダ政府観光局（東京都港区赤坂8-5-33 山勝ビル5階 電話03-479-5851）にお問合わせ下さい。

トロント

セント・ローレンス水路が生んだ
金融・商業の中心地

オンタリオ州の州都であり、カナダ最大の人口を誇る。トロントという名はインディアン語で「集会の場所」という意味。古くからフランス人による毛皮取引きによって知られ、一七九一年、当時は



アップパー・カナダと呼ばれていたオンタリオ州の初代副総督ジョン・シムコーにより開基された。

現在では、セント・ローレンス水路の重要な湖港として加速度的に発展し、それに伴う新興の高層建築が、古い街路樹の続く通りと素晴らしい対照をみせている。

カナダの金融、通商の中心。メトロ・トロントは二七〇マイル四方にわたり、